

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報（平成 27 年度）のポイント

1. 財務諸表における債務残高の推移

- 平成 27 年度期首の債務残高は、29 兆 3,925 億円でしたが、期中に 1 兆 981 億円の債務を引き受け、3 兆 3,050 億円の返済及び 1 兆 6,210 億円の債券発行等を行った結果、期末（平成 28 年 3 月 31 日）の債務残高は、28 兆 8,153 億円となりました。

【本文 P1 参照】

平成 27 年度の債務残高の推移

		平成 27 年度	(参考) 平成 26 年度
期首債務残高	A	29 兆 3,925 億円	29 兆 9,829 億円
債務引受額	B	1 兆 0,981 億円	9,881 億円
債務返済額	C	3 兆 3,050 億円	4 兆 0,630 億円
資金調達額	D	1 兆 6,210 億円	2 兆 4,750 億円
債券発行差額償却による簿価増	E	86 億円	95 億円
期末債務残高	A+B-C+D+E	28 兆 8,153 億円	29 兆 3,925 億円

注 1) 資本金及び道路承継未払金（平成 26 年度末 907 億円、平成 27 年度末 507 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

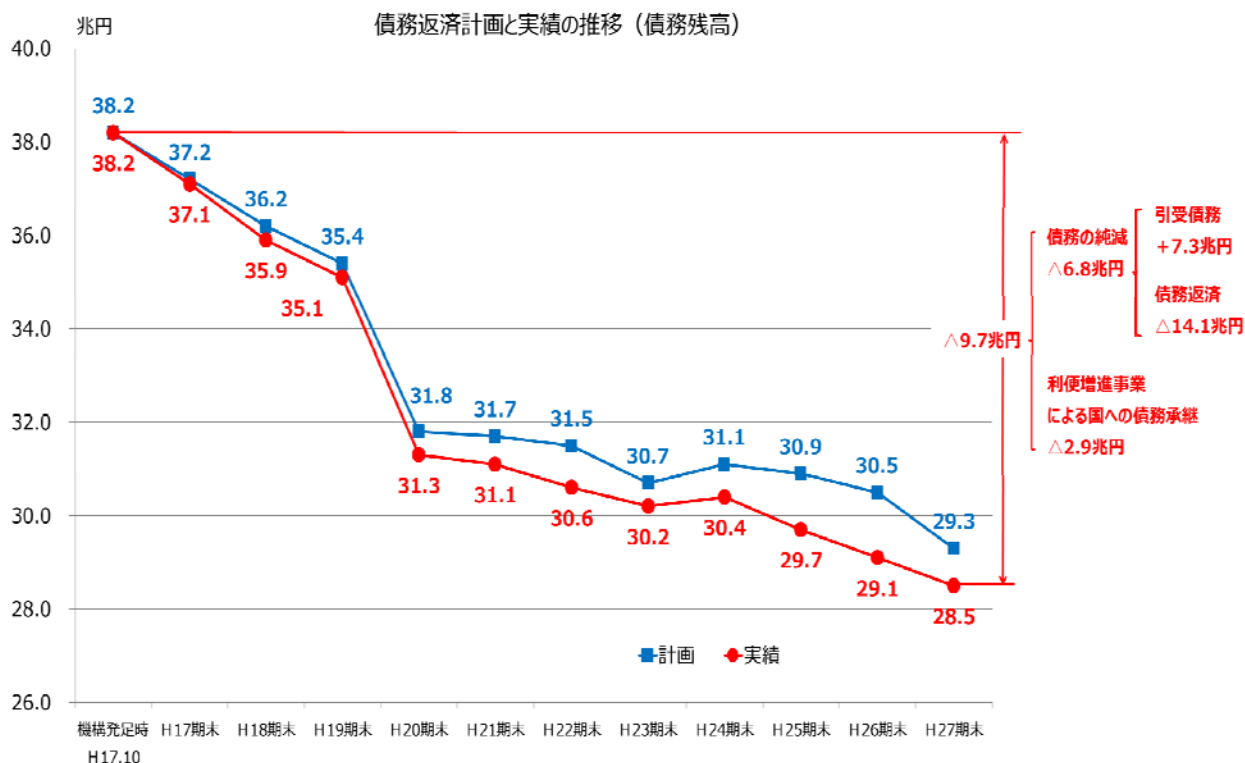
2. 資金調達の状況

- 平成 27 年度資金調達実績は、1 兆 6,210 億円（政府保証債 1 兆 2,510 億円、民間借入金 350 億円、財投機関債 3,350 億円）。
- 今後の金利上昇リスクを軽減し債務返済の確実性を高める観点から、低金利環境を捉えて超長期年限での調達拡充を目指しました。
- 幅広い I R の実施による新たな投資家の開拓等の取り組みにより、債券では国内最長となる 40 年債を複数回発行し、借入では年限をすべて 20 年へと長期化しました。
- 上記取り組みの結果、有利子債務の平均利率は、期末時点で 1.37% まで低下。

【本文 P2 参照】

3. 債務返済計画と実績の推移

○ 機構発足時からの債務返済計画と実績の推移は以下のとおりです。



4. 平成 27 年度における債務返済計画と実績の対比

- 特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務について、債務返済計画ベースの平成 27 年度期首債務残高は 29 兆 1,080 億円でした。平成 27 年度は、収支差 1 兆 6,578 億円、会社からの引受債務 1 兆 542 億円の結果、平成 28 年度期首債務残高は 28 兆 5,044 億円となり、平成 27 年度期首に比べ 6,036 億円減少し、計画に対しては 7,366 億円下回りました。
- 平成 27 年度から新たに特定更新等工事に係る債務の引受けが始まりました。平成 27 年度は、会社からの引受け債務 40 億円、債務返済開始前の引受け債務に係る消費税相当額が△3 億円となったことから、平成 28 年度期首債務残高は 37 億円となり、計画に対しては 601 億円下回りました。
- 以上の結果、平成 28 年度期首債務残高の総額は 28 兆 5,081 億円となり、計画に対しては 7,967 億円下回りました。

【本文 P4~5 参照】

5. その他

平成 27 年度の高速道路会社別・路線別営業収支差は本文 P10~11 等をご参照ください。